

ヒトプリオン病におけるH-FABP髄液検査の標準化とB-FABPの動態

研究分担者: 広島大学大学院生物圏科学研究科 堀内浩幸

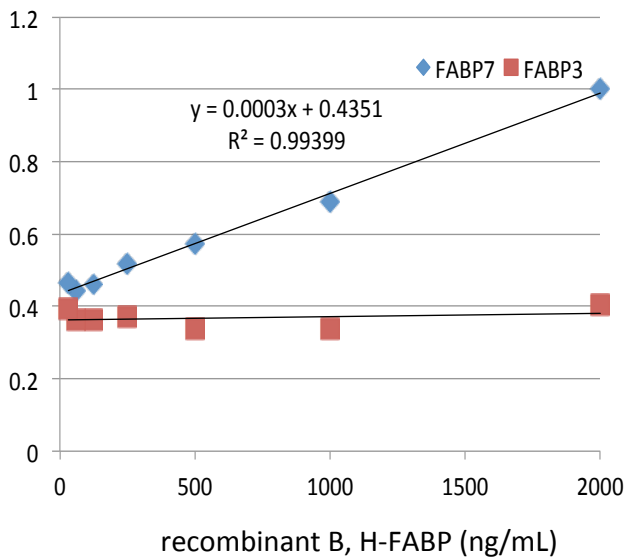


図1 B-FABPの検量線

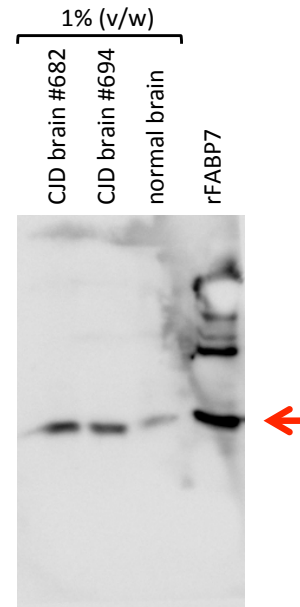


図2 脳抽出液中のB-FABP

解説

図1. 抗ヒトB-FABP (FABP7) に対するモノクローナル抗体とポリクローナル抗体を組合わせたサンドイッチELISAにより検量線を作成した。その結果、構築した定量系では31-2,000 ng/mLの範囲でB-FABPを定量できることがわかったが、生体材料中のB-FABPを定量するには更なる高感度化が必要であることもわかった。

図2. プリオン病 (CJD) の患者と健常者の脳抽出液中のB-FABPをウエスタンブロッティング法により解析した。その結果、プリオン病の患者でB-FABPが多く検出された。

本研究は、プリオン病診療ガイドラインの策定・改訂に資するものであり、今後は検出系の高感度化と脳におけるB-FABPの動態を解析したい。

本研究は佐藤克也・西田教行 (長崎大学) との共同研究成果である。